

羅 針 盤			担当分掌	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目			自己評価	外部アンケート等				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	学部・学級だよりや連絡帳、HP等から「お子さんの学習の様子がよくわかる」と保護者が答えている。（目標値100%）	教務部 情報部主事	各種たよりや連絡帳、HPの記事等に、学習の目的や取り組みの姿などを入れ、様子を分かりやすく伝える。ただし個人情報の取り扱いには十分注意する。	A	B	B	アンケートで「よくわかる」が90%以上ではあったが、お便りは写真がよくわかるようにカラー印刷を希望、HPの更新希望という意見もあり、学校の様子をもっと知りたいという意見があった。	○高等部が行っている専門高校等による学校間連携事業で地域の学校との交流（鱒バーガー開発）は関係者以外にも紹介できるので、よい実践だと思う。	○保護者が学校HPをよく見ていることがわかったので、行事ごと活動の様子をHPにあげていき、更新を行っていく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	居住地校交流や学校間交流を実施している児童生徒の保護者が満足している。（目標値100%）	教務部 交流係	交流活動や販売活動の実施後に、保護者へノートや通信で活動の様子を伝えたり、HPに活動の様子（写真等）を載せたりして、保護者が活動について理解を深められるようにする。		B	B	アンケートでは、居住地校交流を行っている児童生徒が全体の割合としては多くないため「わからない」という回答が多くなってしまった。ただ、学校間交流は小中高等部とも実施しているが、実施後の活動の様子の紹介が少なかったと思われる。	○藤岡北高校が土曜日に行っている販売活動に参加させてもらう等の工夫をすれば、本校の取組を知ってもらうよい機会になると思う。	○保護者に学校間交流や地域の方々との交流の意義を理解していただけるように学部・学校通信や授業参観などの機会に伝えていく。 ○交流後は交流の様子をHPやお便り、ノート等で積極的に伝えていく。
		PTAが関連する総会や事業に参加した保護者の70%以上が内容や方法について満足している。	渉外 PTA	保護者同士の親睦を深めたり、進路の情報を提供したりするなど、保護者のニーズに沿った事業を実施する。				A	A	A
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	全職員が、知的障害のある地域の児童生徒について担任等に支援方法の助言をすることができる。（目標値100%）	地域支援部	新転任者に地域の状況や支援の実態について研修を実施をする。外部専門家を活用して、特別支援教育に関する理解を深めていく。	B		B	アンケートでは、助言するまでの自信がないという回答もあった。助言援助については、すべて自分で助言しなければならないということではなく、専門的知見のある人や情報源を紹介するということなども含まれるという理解が足りないかも知れない。	○地域に医療的ケア対象の児童が何名かいるので、必要に応じて、助言などをしていただけるとありがたい。	○以前、専門アドバイザーの訪問相談に希望者が同行することがあった。また、「ふじっこくらぶ」では、保護者との相談で記録係として同席することも可能である。そのような場面で、より多くの教員に立ち会ってもらう機会をつくれるとよい。
		全職員が、個別の指導計画の作成を必要としている地域の教員に助言をすることができる。（目標値100%）	地域支援部	活用している教材や支援具について、学校参観等で、問われたときには説明できるようにする。ホームページ等で地域で活用できそうな教材を紹介する。	B		B	アンケートでは、助言できるレベルの知識がないという回答もあった。本校で普段行っている支援や使用している教材・支援具について当然と考えていることが、地域の学校では、知られていないことが多い実態を理解していないのかも知れない。	○専門アドバイザーが、地域の学校等で助言を行うとき、本校で活用されている教材等を紹介することがある。そのことについて周知してもらい、本校の教員に、身近なことが役立つ可能性があることを知ってもらうとよい。	
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	保護者の参画のもと、個別の指導計画を立案している。（目標値100%）	各学部	計画を作成する際、実態を踏まえて保護者に丁寧に説明し、保護者からの意見を取り入れながら作成する。	A	B	B	保護者アンケートでは「そう思う」「ややそう思う」合わせて90%は超えていたが個別面談の回数（年2回）が少ないことや限られた時間での面談では十分な話し合いが難しいという意見等があった。	○学習の様子を見て、落ち着いて学習に取り組めている様子に驚いた。子どもたちの成長を感じる。	○保護者との面談の機会については、保護者の必要に応じて、面談ができる期間を示して対応できるようにする。
		保護者は個別の指導計画の目標設定やその手立て、達成状況に満足している。（目標値100%）	各学部	個別の指導計画の内容について、個別面談や日常の連絡ノート等で話題にするように努める。		A	A	アンケートでは保護者が目標の達成状況について「とてもそう思う：45.8%」、「ややそう思う54.2%」と高い評価をしている。	○高等部を対象に行われた金融教育公開授業は素晴らしい学習だと思う。働くことへの意識や貯金の必要性など引き続き学校の授業で学んで欲しい。	○保護者面談の前には、個別の指導計画や支援計画について職員が適切な説明できるよう確認の場を設け、限られた時間の中で有意義な話し合いがもてるよう準備をする。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	90%以上の職員が校内研修等で得られた知識や技術を生かし、指導内容や指導方法の改善につなげている。	研修部 各学部	指導内容や指導方法を改善しようとする意欲を高めることができるように、教職員を少数のチームに分け、授業を実践する上での悩みや改善したいこと等を共有する機会を設定する。また、共有内容をGoogleフォームで集計し、結果を学校全体でも共有する。	A		A	職員アンケートでは指導方法の改善につなげていると回答している職員が94.1%であった。今年度のICT関連の研修は有効で、ICTを活用した授業を展開する上で大変参考になっている、という意見等もあり、研修の内容を日々の授業に生かしている。	○地域との交流活動を通して、いろいろな人と関われるような自信を付けて欲しい。	○引き続き、校内研修でICT機器の使い方についての研修を取り上げる。 ○計画訪問の機会を利用し、ICT機器を活用し児童生徒の学習意欲を高められるような授業づくりができるよう、研修を進めていく。
		児童生徒の学習意欲を高めるためにICT機器を授業の中で利用している。（目標値100%）	研修部 各学部	ICT機器を授業の中で利用する機会が増えるように、情報係と連携し、ICT機器の使い方に関する講習会を資質能力向上研修の中で取り組む。 「ICT使ってみましたシート」の作成を呼びかけ、ICT機器を利用した授業の実践事例を積み上げる。	A		A	職員アンケートでは「ICT機器を活用している」との回答が97.1%あり、校内研修でICT機器の使い方を学んだり、授業での積極的な活用を促したりしたことが高評価につながったと思われる。		
	Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	児童生徒の心身の健康の保持増進のため、家庭との丁寧な情報交換を行うとともに、各種たより等で情報提供をしている。（目標値100%）	保健安全部	児童生徒の心身の健康状態について、保護者との情報交換を密に行い、その情報を教職員間で共有しながら適切に対応する。また、保健だより等で情報提供を行い、心身の健康への理解を深めていく。	A	A	A	保護者アンケートでは、「健康管理・情報交換に努めている」との回答が97.5%、職員アンケートでも97%と高い評価が得られた。学校生活で体調の変化が見られたときにはすぐに連絡を取り合う等の対応がよかったと考えられる。	○iPadは便利だが、怖さもある。SNSで知らない人と連絡をとったり、課金で多額の請求がきたりといった相談が増えている。在学中に、使い方のルールを学ぶ機会があるとよい。
職員研修や訓練を実施し、児童生徒の病気や怪我等の緊急事態が発生したとき、迅速で適切な対応をとることができる。（目標値100%）			保健安全部 各学部	救急救命等に関する職員研修や緊急搬送訓練を行う中で、想定され得る事故等について教職員間で共通理解を持つとともに、緊急時に慌てず迅速な対応がとれる態勢を整える。	A		A	実際の緊急搬送想定での訓練を行ったことで、職員アンケートでは「迅速で適切な対応を取ることができる」との回答が97%と高評価が得られたと思われる。	○職員の働き方改革が進められているのはよいことだと思う。通知文書や教材などの共有化を図ることが業務改善につながると思う。	○病気や怪我への対応の訓練を年度の早い時期に行い、敏速で適切な対応ができるよう、準備を行う。
7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。		危機対応マニュアルを理解し、地震、水害等の自然災害が発生したときに、適切な対応を取ることができる。（目標値100%）	保健安全部	危機対応マニュアルを全職員に周知し、チャート図を校内各所に掲示する。訓練のあとには、必ず反省をあげ、反省をもとに、より適切な対応ができるようにマニュアルを周知する。	B		B	訓練を適切に行ったことで「対応できる」という回答は97%と高かったが、どのような状況下になっても、適切な対応ができるように、職員の危機対応マニュアルの理解を深める必要がある。		○年度の早い段階で必要な訓練を実施し、対応ができるよう計画を行い、災害の発生状況などを工夫して職員が臨機応変に対応できるよう訓練の工夫を行う。 ○引き続き、毎月の安全点検を行い、危険箇所

	の力確保に努めていますか。	学校の安全意識を持ち、児童生徒に対して安全への配慮ができる。（目標値100%）	保健安全部	定期的に安全への配慮を呼びかけるとともに、毎月の安全点検を確実に実施し、修繕箇所がある場合には早急に対応する。	A		A	アンケートでは「安全への配慮ができた」と100%の職員が回答している。毎月安全点検を確実に実施していることで、修繕力所に気付いたときには早急に対応することができている。		がないようにすると共に、必要があれば早急に対応をする。
	8 いじめのない学校づくりに取り組んでいますか	いじめの認知の仕方について保護者が理解している。（目標値100%）	生徒指導部	PTA総会で学校いじめ防止基本方針と関連資料を配付・説明したり、学校ホームページに掲載したりして説明する。		B	B	保護者アンケートでは「とてもそう思う:48%」「ややそう思う:48%」と全体的には理解している割合は高いが、「どのような対応をしているかがわからない」という意見等もあった。PTA総会の時だけではなく、保護者への説明をする機会を積極的に設ける必要がある。		○今年度同様に、年度のはじめにあるPTA総会では、学校いじめ防止基本方針と関連資料を配付・説明を行う。 ○PTAの集まりで伝えるだけではなく、保護者に取組について伝わるような機会を模索していく。
		いじめや問題行動に対して、十分な取り組みや対応ができています。（目標値100%）	生徒指導部	いじめの実態把握や防止等について教職員の理解を深め、児童生徒同士が相手の気持ちを考えて行動できる環境を整える。	B	B	B	学校・保護者とも「対応ができています」という評価が80%以上であった。保護者からは「取組がされているかわからない」等の意見もあり、学校と保護者のいじめや問題行動の認識の差をすり合わせていく必要がある。		
V 将来の生活に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の観点から、指導内容を整理して体系的な指導を行っていますか。	キャリア教育全体計画の内容を直接的に取り扱う授業を、学期に1度は行っている。（目標値100%）	移行支援キャリア教育各学部	キャリア教育全体計画に基づくとともに、本人や保護者の意見を取り入れながら、「キャリアパスポート」を立案・作成する。	B		B	職員アンケートでは「そう思う」「ややそう思う」79%、「あまりそう思わない」が20.6%であった。職員間でキャリア教育全体計画と授業内容について再確認をする必要がある。	○高等部卒業後の余暇活動につながるような活動を高等部の時から実施してもらえると、余暇活動の充実につながると思う。 ○今も行っている和太鼓の授業は卒後の余暇活動につながっているので、継続して欲しい。	○小中高と日々の授業や指導がキャリア教育につながっていることを職員・保護者とともに認識できるよう共通理解を深めていく。 ○本人・保護者が進路について見通しが持てるように各学部で行われる進路指導等についての情報を「進路だより」等をもちいて保護者に発信し、面談の時にも話題とする。 ○引き続き、関係機関とは連携を取りながら、情報交換を行っていく。
	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	社会への移行について担任と面談をした内容について保護者が満足している。（目標値90%）	移行支援部各学部	保護者と面談の場面などでは、卒後の進路について話題にあげ、保護者・本人と情報共有をしながら進路の学習を進めていく。	B	B	B	保護者のアンケートでは、1回目2回目とも「満足している」が90%以上であったが、記述欄に「進路に関する話題がでなかった」等の意見もあり、全体で周知されていないと思われる。		
		年1回以上担当者会議を開催し、指導の連携を図っている。（目標値100%）	各学部教務部	担当者会議に参画するとともに、関係機関に情報提供を行う。	A		A	アンケートでは「連携を図っている」という回答が83%あった。支援についての共通理解を得るばとして有効に機能しているという意見等もあり、保護者・学校・関係機関でよい情報交換が行われている。		